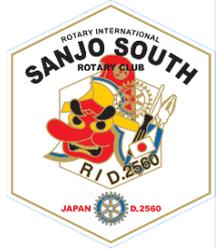




# 三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2022-23 クラブテーマ **未来創造**

2023. 1. 23

新春例会

No.2436 No.19



## 会長挨拶

三条南ロータリークラブ  
会長

**松崎 孝史**

例会場の入口に次の言葉が掲げられています。  
「Enter to Learn, Go Forth to Serve」  
「入って学び 出でて奉仕せよ」という解釈です。

ロータリークラブ会員の著名人として、松下幸之助（大阪 RC）、瀬戸内寂聴（徳島南 RC）、藤山一郎（東京西 RC）、司葉子（恵比寿 RC）、宝田明（池袋 RC）などがおられました。

何故このような著名な人たちがロータリークラブに入会していたのかと考えると、やはりクラブで得るものがあり、それを仕事・芸能の分野などで生かせるものがあったから在籍していたものと考えます。

我がクラブでも共通していろいろな組織を動かす経営者がおります。私たちは、これらの人たちと行動を共にすることによって、自然といろいろなことを学ぶことができそれぞれの組織で、クラブで得たものを発信できるのではないのでしょうか。

歳を重ねるごとに私の模範となるような人たちがかりです。是非、これからもロータリークラブに在籍し、多くの仲間を増やしながらか、これからの人生を実りあるものにしていきたいと思ひます。

また、来月1日には東京ロータリークラブで三条市立大学のアハメド・シャハリアル学長が卓話をされてきます。

東京ロータリークラブの会員は 先生の話を聞き、それをまたそれぞれの組織で発信していくと思ひます。



◆本日の出席：41名中26名

◆先週までの通算出席率：84.57%

◆幹事報告 太田義人副幹事

◆R I 2560 地区第4分区 I M開催のご案内

開催日 令和5年4月15日（土）

開催会場 岩室温泉 ホテル富士屋

受付開始 午後12時30分～

開会点鐘 午後1時30分

記念講演 午後2時～午後3時30分

講師 天明 茂 様

懇親懇話会 午後3時50分～午後6時

※三条南ロータリークラブの登録要請数は12名  
御出席よろしくお願ひします

## ニコニコボックス

1/23 11,000円 本年度累計 256,000円

松崎会長「今日もご出席ありがとうございます。」

三条市立大学のシャハリアル学長が2/1に東京RCで卓話されます」

太田幹事「1/13に母が亡くなりました。皆様から御香典をいただき誠にありがとうございました」

西巻君「明日は気温が下がり、雪の心配がなされています。外に出る人達は気をつけて下さい」

坂井君「杉井さんの卓話、楽しみにしております」

銅冶君「杉井さん、本日の卓話ありがとうございます」

西潟君「杉井さん、卓話楽しみにしております。今年のキーワードは「価格転嫁」と「賃上げ」のような気がします」

田代君「BOXに協力します」

加藤君「BOXにご協力ありがとうございました」



国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ（カナダ）  
第2560地区ガバナー 高橋 秀樹（新潟）  
第4分区ガバナー補佐 渡邊 喜彦（巻）  
会長 松崎 孝史  
幹事 太田 義人  
SAA 桑原 朋子

事務局  
〒955-8666 三条市町2-5-10  
三条信用金庫本店内  
TEL 0256-35-3477  
FAX 0256-32-7095  
E-mail info@sanjo-minamijp  
URL https://www.sanjo-minamijp

## 卓 話



杉井 旬会員  
(県議会議員)

### 「県政あれこれ」

明治7年から9年、15年、16年、20年から29年までの計15年間、新潟県は日本でもっとも人口の多い県でした。東京に抜かれたのは明治30年のことです。いま新潟県の人口は217万7千人で全国15位。1404万人の東京の6分の1以下にとどまっています。

それでも明治、大正、昭和と新潟県は東北から北陸にかけてもっとも大きな県であり続けました。

バブル景気最後の年だった平成2年、新潟県の人口は247万4千人、県内総生産は8兆608億8千万円でした。同じ年、宮城県は224万8千人、7兆2860億7千万円で、人口、県内総生産ともに新潟県の方が10%ほど多く、東北・北陸の雄といえは新潟でした。

ところがいま、人口は新潟県の217万7千人に対して宮城県は229万人、県内総生産も新潟の9兆1851億7千万円に対して宮城は9兆8293億5千万円で、新潟は宮城に追い抜かれ、東北・北陸のチャンピオンの座を奪われてしまいました。

宮城は山形、岩手、秋田、青森を後背地として拠点性を高めたのに対し、新潟は高速道路、新幹線、空港、港湾を持ちながら、それぞれバラバラで後背地がなく、環日本海の玄関口になりそこなっているからです。

産業振興もブームに踊らされず、三条や燕、長岡のものづくり産業を支援するなど、地に足の着いた施策を展開すべきです。

「でも新潟は農業大県ではあるはず」という認識も間違いで、都道府県別の農業産出額を見ると、30年前の新潟は3870億円で全国6位、20年前は3330億円で全国7位、10年前は2777億円で全国9位、そして現在は2269億円で、長野や群馬、山形にも抜かれて全国14位まで落ちています。生産者の都合や論理を優先するプロダクトアウトではなく、消費者のニーズに合わせたマーケットインの施策展開に変えなくてはなりません。

国立社会保障・人口問題研究所は平成27年に230万4千人だった新潟県の人口は、30年後の令和27年には60万5千人減の169万9千人になると推計しています。

同研究所のこれまでの推計は残念ながら当たっていました。60万5千人は長岡、上越、三条の3市がすっかりなくなる規模の減少となります。人口減を食い止める対策とともに、人口が減ってしまった場合に備える対策も進めなければなりません。

たとえば現在、各市町村が別々に行っている消防や水道、ごみ焼却施設などは広域化を検討すべきです。

県内の110番と119番の通報件数は似たようなものですが、それに対応するスタッフは県警本部一か所で受けてい

る110番は24人、県内19か所で受けている119番は合わせて168人で、効率に7倍もの差があります。

こうした高度成長の時代に整備した体制を、効率的なものに変えていかないと将来、どの市町村も負担に耐えられなくなります。いまから見直していかないと、間に合いません。

## 新年会例会のお知らせ

**「厄払・開運・疫病退散祈願」**  
**卯年うまれの年男も そうでない方も**  
**宮司さんに 祓い清めていただきましょう**

とき 2023年2月6日(月)午後6:30~

ところ 松木屋

三条市本町2-9-5 ☎34-5252

※ 出欠は事務局までお知らせください

【事務局よりお知らせ】

### ロータリー財団・米山奨学 確定申告用領収証について

ロータリー財団、ロータリー米山記念奨学会にご寄付いただきました昨年1年間(2022年1月~12月)の寄付金につきましては、確定申告用の証明書が発行されます。

例年1月末~2月初めに事務局へ到達しますが、現在、天候事情などもあり、未だ届いておらず、到着日は不明です。

また、市内や近隣への郵送も日数がかかっており、今後とも天候次第です。

**お急ぎでない分は、2月13日例会で配布予定ですが、その前に受け取りをご希望の方は、事務局へ随時御問合せいただきますようお願い致します。**

尚、各々注意事項が添えられておりますので、よろしくご確認のうえ、お手続き下さいますようお願いいたします。

## マッキナリーR | 会長エレクトが 2023-24年度会長テーマを発表

サウス・クイーンズフェリー・ロータリークラブ（スコットランド）の会員であるゴードン R マッキナリー国際ロータリー会長エレクトは、1月9日、米国フロリダ州オーランドで開催中のロータリー国際協議会で講演し、2023-24年度会長テーマ「世界に希望を生み出そう」を発表しました。この講演でマッキナリー氏は、問題を抱える国で平和を推進し、紛争の影響を受けている人びとを助け、過去のリーダーたちが始めたイニシアチブを引き継いでいくよう会員に呼びかけました。また、世界の注目を集め、現在の期待をはるかに超える可能性を切り開いていくことを求めました。

「私たちの目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。そうすれば、私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となります」とマッキナリー氏は述べました。

また、タイで出会った一人の女性の話を紹介しました。そこでは、2004年末に南アジアを襲った津波の後で、ロータリー会員が家屋や集会場、保育・医療施設の建設にあたっていました。津波で夫、娘、息子を失くし、生計手段も失ったというその女性は、マッキナリー氏にある物をプレゼントしました。それは、美しい貝殻でした。

「彼女は、ロータリーのおかげで前向きな気持ちを取り戻すことができたと話していました。私たちは彼女に希望を与えたのです」とマッキナリー氏。「これこそ、ロータリーが世界にもたらしている変化です。この変化が、一つずつ希望を取り戻し、新たな希望を生み出しています」

### 平和の推進

世界に希望を生み出す重要な方法となるのは、平和に重点的に取り組むことだとマッキナリー氏は述べ、過去1年間、ロシア軍による侵攻を受けたウクライナの人びとを支援するためにロータリー会員が行動してきたことに言及しました。ロータリーが人道的支援に力を入れたことで、ウクライナでのロータリー会員数は増えています。しかし、ウクライナだけでなく、イエメン、アフガニスタン、シリアをはじめ世界の多くの地域で平和が実現しない限り、本当の安らぎはないと指摘しました。

「平和とは、希望が根づくための土壌です」とマッキナリー氏。

継続の力についても強調し、過去のリーダーの取り組みを継続するよう会員に呼びかけました。自身も、シェカール・メータ2021-22年度会長が立ち上げた「女兒のエンパワメント」イニシアチブを継続し、ロータリー全体で多様性、公平さ、インクルージョンを強調し続けていくことを約束しました。また、ポリオ根絶への継続的な取り組みの重要性を物語る最近の一連の出来事にも触れました。過去1年間、世界各地でポリオ症例が再発しており、ロータリー会員がポリオ根絶活動をリードすることが今まで以上に重要となっています。



このため、ロータリーが毎年5,000万ドル以上を集め、ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの2倍額の上乗せ資金を確保しなければならないとマッキナリー氏は話しました。現在、ポリオ根絶に寄付している会員は約12人に1人に過ぎず、毎年寄付しているクラブも5分の1を下回っています。

マッキナリー氏は、「ポリオのない世界」というロータリーのビジョンを実現するために、クラブの中に新たな緊急感を生み出すよう地区ガバナーエレクトの協力を求めました。「各年度に何をすべきかではなく、それを超えて考えるべき時が来ています。できるだけ早く実現するために必要なあらゆるリソースを、私たちが提供していかなければなりません」

### メンタルヘルスへの取り組み

マッキナリー氏はさらに、新型コロナウイルスの世界の流行によって深刻化しているメンタルヘルスの問題の影響を受けている人たちに、ロータリー会員が希望を与えるべきだと述べました。多くの人が家族を失い、社会的つながりを断たれ、特に若い人たちの教育や育成が妨げられています。その結果、世界でメンタルヘルスの問題に直面する人が増えています。しかし、助けを求めることは弱さの現れであると考えられることが少なくありません。

「真実から目をそむけることはできない」とマッキナリー氏。「助けを求めることは勇気ある行動です。健康と幸せにいたる道を求めることは、さらに勇気が要ることです」

次年度以降、ロータリーはメンタルヘルスサービスの改善に取り組んでいくとマッキナリー氏は続け、ロータリーは会員と奉仕を受ける人の両方を支える組織として知られるべきだと述べました。「メンタルヘルスの専門家なら誰もが口をそろえてこう言うでしょう。ほかの人を助けることで、本質的に自分自身が助けられるのだ、と」

講演の最後には、継続と革新の理想的なバランスについて述べました。「ロータリーは、平和、機会、生きる価値ある未来の土台を築いています。私たちが得意とすることを継続すると同時に、変化に対してオープンで前向きになり、世界と自分自身の中に平和を築くことに力を注げば、ロータリーはより平和で、より希望のある世界を築く手助けができます」

(マイロータリーより。記事 [Etelka Lehoczky](https://www.rotary.org/en/node/9263))  
<https://www.rotary.org/en/node/9263>